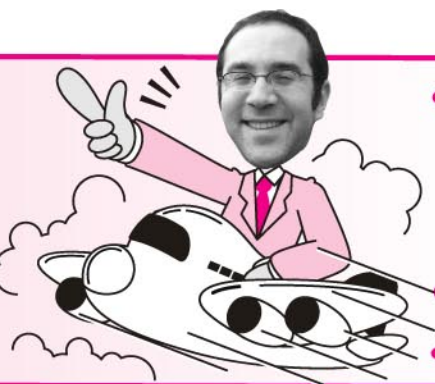


オレリエン・ハンターの スイスへの誘い

イヴェルドン市民が見た21世紀の日本



前回、1920年代に日本へ派遣され、家族と数年間神戸で滞在したイヴェルドン市出身のルネ・ヴォドの話をしました。彼の写真を通して、当時の外国人の持つ日本の印象が伝わるといいます。皆さんもぜひ、5月28日まで展示されている写真を見にペスタロッチ館ギャラリーへ足を運んでください。

今回は、友好都市イヴェルドン・レ・パン市の訪問団が4月9日から16日まで日本と鏡野町を訪れたときに、同じイヴェルドン市民は21世紀の日本をどういう目で見るのだろうと思って、鏡野町との友好交流事業についての重要人物の2人に話を伺いました。

まず、イヴェルドン・レ・パン市を訪れる鏡野町の団体がいつもお世話になっている市長室副書記のミシェル・ヴィルツ（Michel Wirz）さん。



ミシェル・ヴィルツさん

日本の印象は？

東京の広さに驚きました。土地が貴重とはいえ、東京は無秩序の都市計画という印象を与え、何を建ててもいい気がします。そのせいか、東京タワーはパリのエッフェル塔より高いとガイドさんに言われましたが、周りの建物も高くそびえていますから、東京タワーの大きさは分からなくなります。

東京から京都まで新幹線に乗りましたが、街が途切れずにある気がしました。

印象に残ることは？

人は規律正しくて素晴らしいです。人込みの中を歩いても、ぶつかりませんし、見学した施設などでは皆さんがものすごく丁寧でした。

スイスで考えられないアイドリングする人は多いけど、日本はスイスよりきれいなことに驚きました。昔スイスはとてもきれいな国でしたが、最近路上のゴミや落書きが目立つ気がして、汚くなったように思います。

日本の文化を代表するお寺や庭に魅了されました。満開の桜に間に合ってよかったです。

鏡野町の印象は？

東京や都会と違って、とても長閑な場所で、子供が自転車で田んぼの間を走って通学するのを見て、鏡野町の生活環境はとても快適に思いました。

続いて、ペスタロッチ研究・資料館の館長・フランスワズ・ヴァリデル（Francoise Waridel）さん。



フランスワズ・ヴァリデルさん

印象に残ることは？

元教師として、学校の質に驚きました。生徒も先生も規律正しくて、私達だけではなく、お互いも尊敬しあっているように見えました。現在のスイスの教育が日本に学ぶことは多いと思います。

鏡野町の印象は？

鏡野町の皆さんはイヴェルドン市民よりペスタロッチを本当に敬愛している気がしました。ホストファミリーの娘にペスタロッチの絵を見せたときに、「あ、ペスタロッチだ」と即答しました。イヴェルドンの子供に同じ絵を見せてもわからないと思います。

ホストファミリーは私たちをとても温かく歓迎してくれて、とても優しく接してくれました。子供はとても元気でお父さんと遊んでいる姿を見て、鏡野町は子供が伸び伸びと育つ場所だと思いました。

ヴィルツさん、ヴァリデルさん、ありがとうございます。鏡野町をイヴェルドンの皆さんにこのように紹介してくれば、行ってみたくなる人がきっと増えます。また、鏡野町へ来てください！